エピソード８４
子どもを学校へ行かせないと保護者に言われました

このエピソードでは、教職経験２３年目の４０代男性の先生の経験を紹介します。

なみちゃん
　小学校教師として25年以上の経験があります。

私は、教務主任で特別支援教育コーディネーターを兼務しています。先生になって10年目の30代の先生から相談を受けて、私がかかわった保護者さんのことをお話します。この先生は4年生の担任です。

順調な学級経営をしていると思われた担任から相談がありました。亜実さんの保護者から「亜実が彩佳さんから執拗に嫌がらせを受け、何度も相談しているにも関わらず、担任は彩花さんや保護者に毅然とした対応をしてくれないので、亜実が学校に行きたがらなくなった。彩佳さんとその保護者を学校の責任で呼び出し、謝罪させるとともに、学校からもその場で厳しい指導を行い、私たちが納得のいく内容で再発の防止を確約しなければ、学校へ行かせない。」という苦情を両親から受け、どのように対応したらよいか困っている、とのことでした。

担任の見立てでは、亜実さんと彩佳さんは、仲が悪いわけではなく、学習や委員会、クラブなどで同じグループになったときは、問題なく一緒に行動でき、ときおり一緒に登下校することもある関係です。ただし、４年生になり、原因はわからないが、時折、彩佳さんが急に亜実さんに腹を立ててきつい言葉で攻撃したり、小突いたりするなどの行為が増えてきているとのことでした。

担任としては、その都度、彩佳さんと亜実さんと周りにいた児童から、状況や言い分をきちんと聞き、トラブルの内容や原因を整理した上で、今後気をつけることを指導し皆で共有していました。特に、彩佳さんには、きつい言葉で攻撃することや小突く等の行為は暴力であり、絶対にしてはいけないことであると再三厳しく注意し、家庭にもきちんと連絡して指導のお願いもしていました。

そして、亜実さんの家庭にも、お詫びとともに、指導した内容をその都度伝えていました。

このように、担任の児童への指導や保護者との対応は、きちんと行われていたにもかかわらず、嫌がらせや攻撃的言動は、少なくはなったが無くすることはできなかったため、亜実さんの保護者の堪忍袋の緒が切れ、最終通告のような厳しい口調での苦情につながってしまったと考えました。

保護者は「暴力的言動が繰り返される原因は児童の性格や家庭のしつけにあり、何度指導しても改善されないのであれば、学校がより厳しく加害者本人や家庭を指導するのが当然である。」と、おそらく考えたのだと思います。

ここで、保護者の不信感をぬぐうために、学校が保護者の言い分通りに指導してしまうと、決して良い方向には向かわず、双方の家庭と学校の関係が益々悪化することになりかねないです。
なぜならば、「何度指導しても改善されない原因がどこにあるか？何であるか？」を、子どもの姿からしっかり見据えるという一番大事な手立てが抜けているからです。

そこで、私自身は、担任本人だけでなく、校長、教頭、学年主任とも相談の上、この件を学校全体の問題として、全職員が協力して対応できるよう、臨時の生徒指導委員会を立ち上げることにしました。旧担任や養護教諭、用務員、公務助手等、幅広い視点から、彩佳さんの傾向や、亜実さんと彩佳さんの関係の情報を共有することで、少しずつ根本の原因が明らかになってきて、解決の糸口や更なる対応の工夫につながる道筋が見えてきました。

彩佳さんの行動は、亜実さんに対する「あこがれ」や「認めてほしい」という気持ちが根本原因にあり、それがかなわなかった場合の「無力感」や、そういった役割を他の子に取られたと思った際の「ねたみ」のような気持が積み重なり、欲求不満のような状態になり、いやがらせのような行動につながっていたことがわかりました。

亜実さんも、彩佳さんとの関係が面倒に感じることがあり、彩佳さんを無視したり、がっかりさせたりする行動をし、結果として、彩佳さんのストレスを強めてしまうことが少なからずあったこともわかってきました。

これらの児童の心理的背景を十分考慮し、それに基づいた新たな指導方針を次の２点から学校の方針として策定し、双方の保護者への説明と、双方の児童への指導を行うこととしました。

①彩佳さんの行動が落ち着き、亜実さんとの関係が良くなるための実効的な指導の工夫。
②亜実さんの保護者も彩佳さんの保護者も納得する、今後の指導方針と、学校と家庭の役割の確認。

なみちゃんの一言

- こういった問題は当事者だけの問題ではなく、他の子とのかかわりも重要な要素になります。
- そこで、必要な範囲で、学級全体で情報を共有し、子どもたち同士での協力体制や相互互助の関係を構築していけるよう、担任や学年をサポートすることが大切になります。

お・し・ま・い

なみちゃん

ナレーション　浪岡美保
（北海道教育大学大学院 修了生）

イラスト　尾上樹里
（北海道教育大学 大学院生）

COPYRIGHT © 2024 UEKI Katsumi, HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION all rights reserved.